

テーマ

スキルシェアへの参画が
持続的幸福感を向上させる！

研究 名称

個人知活用の社会的な意義

適用 分野

マーケティング、ユーザーイ
ノベーション

氏名 所属

青木慶 准教授
マネジメント創造学部



内容

●特徴

シェアリングエコノミーの発展で、個人がビジネスに参画する機会が増えました。本研究は、**個人の知識や経験などを活かしたスキルシェア**への参画者を対象に、彼らが得ている**非金銭的な便益を可視化**することを試みました。本研究の特徴は、シェアリングエコノミーが、経済的価値のみならず**社会的価値をも向上**させるのではないかという観点からアプローチしている点です。

●研究内容

本研究では、参画者の非金銭的便益を、持続的幸福感で計測することにしました。これは、ポジティブ心理学で提示された概念で、以下の5つ（PERMA）で構成されます。

Positive emotion: 幸福感と人生の満足感

Engagement: “フロー” (Csikszentmihalyi, 1990)

Relationship: 他者との関係性

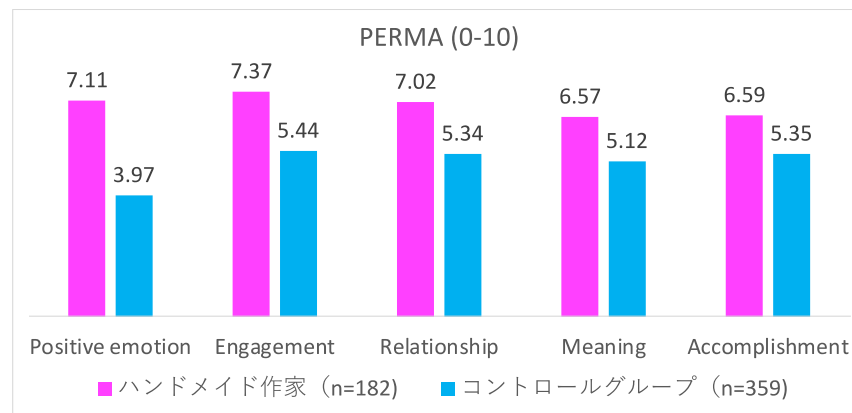
Meaning: 人生の意味や意義

Accomplishment: 人生における達成

本研究では、ハンドメイド作家をスキルシェア参画者として見立てて、コントロールグループ（日本の人口分布比率に基づいて抽出）とPERMAのスコアの比較を行いました。

その結果、全ての項目において、**スキルシェア参画者が有意に高いスコア**を示しました（図参照）。

個人知の活用が幸福度を高めることが示唆される結果となりました。



Note. The scores are based on a measure of PERMA (Butler & Kern, 2016).

図：ハンドメイド作家とコントロールグループのPERMA比較

キーワード

シェアリングエコノミー、ウェルビーイング、持続的幸福感、PERMA

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメントート ■ 共同研究